5/24 朝日

「共謀罪」議論尽くさぬ暴挙

派遣社員　（大阪府　52）

「共謀罪」法案が23日、衆院本会議で可決された。法務委員会では採決を強行している。許しがたい暴挙である。さらに、その理由を自民の鈴木淳司法務委員長が「何度も首相の時間を作るわけにはいかない」などとしたのは、まさしく恣意的な「忖度」というべきであって、議会制民主主義への冒瀆だ。

首相には理論と筋道を立てた議論を通して反対派を納得させ、国民の不安を取り除く義務と責任がある。責任義務を果たすための時間に制限はない。それを惜しむくらいなら、廃案を選択するのが筋道である。

議論を尽くさず採決強行の繰り返しでは、日本の民主主義の土台は壊されていく。恐らくは改憲でもこうなる可能性は高いと思わざるを得ない。このような手法を当然のように繰り返す政権であれば、「共謀罪」についても恣意的な運用がされかねない。そうはならないという答弁に、説得力はなくなった。

参院では誠実な審議を望みたい。私たち国民はこうした政治のやり方に慣れることなく、正当な異議を申し立てていかねばならないと、改めて強く感じる。